

令和6年度第1回 各務原市男女が輝く都市づくり審議会議事要旨

日時 令和6年7月4日(木) 午前10時00分から正午

場所 産業文化センター8階 第2特別会議室

<出席者>竹内委員(会長)、高田委員(副会長)、神戸委員、堀田委員、江口委員、花田委員、栗本委員、渡部委員、岩田委員、長縄委員、永井委員、志津野委員、柴山委員、下野委員、平工市長公室長、古田課長、斉藤係長、後藤主事、渡邊主事

<司会>事務局

- 1 開会のことば
- 2 委員委嘱
- 3 市長あいさつ
- 4 会長あいさつ
- 5 第5次かかみがはら男女共同参画プランについて(諮問)
- 6 議事(以下、議事進行は会長)

(議題第1号)

○令和5年度実績報告について

(委員)とも☆きら講座参加者の男性比率が上がっている。

(委員)人権学習会の映画「破戒」上映について、平日の午後の開催であったため、仕事などで行きづらい人が多いことが考えられる。週末にやると良いのではないか。

(事務局)昨年度は、平日にライフデザインセンター等でサークル活動をしている人をターゲットにしていることもあり、平日開催とした。ターゲット層によって、開催日を工夫する。

(委員)ライフデザインセンターのヨガ講座について、女性限定となっている。男性でもやりたい人はいるし、性別で限定しなくてもいいのではないか。

(事務局)女性限定だけでなく、男性限定のヨガ講座もあり、男女の体のつくりのちがいや運動強度の面から、それぞれの性別に合った講座を開講している。

(委員)「職業能力を高める研修について、市のホームページや広報紙で発信した」とあるが、情報を届けるべき世代に周知方法が適していない。若い世代に対しては、広報紙やウェブサイトだけでなく、SNSや#(ハッシュタグ)を活用したほうが良い。

(委員)年次報告書の評価A~Eの全体比率をグラフなどで可視化してほしい。

(事務局)比率を可視化できるようにする。

(委員)R6年度末の目標値を実態に応じて見直したほうが良いのではないか。

(事務局) 第4次プラン策定時に、令和6年度末の目指す姿として設定した目標値であるため、変更は行わない。

(委員) 年次報告書は市民に公表しているのか。

(事務局) 市ウェブサイトにて公表している。

(議題第2号)

○令和6年度事業計画(案)について

(委員) 親世代にセミナーの情報がなかなか届かない。幼稚園や学校からの配布物はよく見ているから、そういったところに情報を差し込めるといいと思う。

(委員) 学校から配信されるメールを親世代はよく見る。広報手段を変えると新たな層へ情報が届く。

(事務局) 生徒が使用しているタブレット経由で保護者の方に情報が届く「スマート連絡帳」を使用するなどして、ターゲットに対し情報が行き届くよう周知方法を工夫する。

(委員) とも☆きら講座やワーク・ライフ・バランスセミナーは来てもらいたい人にダイレクトに届く方法で周知できるといい。

自治会で広報紙の配布役をやっているが、広報紙が届くのを待ち望んでいる人が多いように思う。広報紙での周知もしながらバランスの良い広報を考えていてもらいたい。

(委員) 若い人に見てほしい情報、若い人を雇用している企業に見てほしい情報だけをピックアップしてXで発信した自治体がある。

(事務局) SNSを含め、使える発信手段は全部発信する。

(委員) 広報の際、文字情報ばかりでは分かりづらいことがある。回覧板にイベントチラシを差し込むといった視覚に問いかけるような工夫が必要である。

(委員) 法律相談に対し、予算額の記載がないが予算がないということか。

(事務局) 法律相談に対しても弁護士への報酬として予算が計上されているが、今回の資料にはイベントに係る予算のみ記載している。

(議題第3号)

○第5次かかみがはら男女共同参画プラン 骨子案について

→審議会委員からの質問や意見を受け付け、後日、事務局の意見を書面にて回答した。

※審議会委員の発言・事務局の回答内容は、別紙参照

閉会

令和6年度 第1回各務原市男女が輝く都市づくり審議会
議題第3号「第5次かかみがはら男女共同参画プラン骨子案」に対する市の回答

いただいたご意見と市の考え方

	意見内容	市の考え
体系について	<p>・市だけの課題じゃない。市内外の人から見て、「各務原市らしさ」はどこになるのかということを考える必要がある。今はすべての課題が並列に記載されているため、優先順位をつけるといい。</p>	<p>男女共同参画事業は取組む分野が多岐に渡り、それぞれ重点的に取組むべきテーマであることから、優先順位をつけることはむずかしいと考えております。</p> <p>また、第5次プランでは、新たに強化すべきテーマとして、「困難な問題を抱える女性支援」や「性の多様性」を基本施策として追加いたします。</p>
学校教育について	<p>・学校ではハラスメントに気をつけている。健康診断では、男の子は男性スタッフ、女の子は女性スタッフに見てもらおう。その一方で、ランドセルの色や制服の選択制など、多様性が認められる部分も増えてきた。男女平等になりつつあるが、ハラスメントに関わる点については、男の子は男の子、女の子は女の子など、性差に対する配慮が必要だと思う。</p>	<p>様々な場面における性差への配慮についてもプラン本編の中で触れていきます。</p>
女性管理職登用・企業への支援について	<p>・資料を見ると、「女性の管理職を増やすには、家事負担の軽減や労働環境の整備が必要」と謳っているが、それを分析したデータがない。「女性が管理職になることを希望していない」と謳っているが、理由は分からない。それでも、数値だけ見てその数値を上げていこうという。数値が上がらない理由を明確にしないと、女性進出はできない。</p> <p>自分のキャリアであがっていきたい、役職に立候補したい女性を支援するため、根本的な女性の悩みを明確にすることが市の取り組んでいくべきことだと思う。</p>	<p>市で行った事業所アンケートにおいて、女性管理職を積極的に登用したいと回答した事業所に対し、女性管理職を増やすために必要なことを尋ねたところ、「出産や育児等による休業がハンディとまらない人事管理・能力管理」や「時短勤務やリモート勤務などの柔軟な働き方の整備」との回答が多かったことから、女性管理職登用には、ライフイベントが影響しない職場環境の整備とワーク・ライフ・バランスの実現が必要であると分析し、資料のとおり記載しております。</p> <p>「女性が管理職になることを希望していない」という記述についても、事業所</p>

<p>・女性が管理職になりたくないというのは、その仕事をしたくないというわけではなく、生活が成り立たなくなるからではないか。その点では、ワーク・ライフ・バランスを推進していく必要がある。</p> <p>・従業員に女性管理職を進めても、サポート職が良いと言われる。理由を聞くと、「家庭があるから残業はできない」、「家庭が優先」と言われる。独身の女性は、趣味など他にやりたいことがあるから、仕事一本にはできないと言われ、お願いしても良い返事がもらえない。個々の事情があるからなかなか難しい。</p> <p>・女性は家庭のことをしなければならないという意識があるから積極的になれない。リーダー的な人の仕事が忙しすぎるから、能力はあるのにその立場になることを躊躇してしまう。</p> <p>好事例だが、企業の中で役職者の仕事を見直そう、定時で帰れる仕事の在り方にしようとした企業がある。企業によってはそんなことをしている余裕はないかもしれないが、変えていかないと優秀な人材は残ってくれない。</p>	<p>アンケートの結果を基に記述しておりますが、管理職を希望しない理由については、データがございません。</p> <p>管理職になりたいという願望があるかどうかは、性別を問わず、人それぞれと考えておりますが、管理職になりたい人が家庭の事情等で管理職になることを諦めてしまうことがないよう取り組んでまいります。</p>
<p>・目標 1ー基本施策 3 の施策の方向「育児介護休業制度の普及・充実」や基本施策 4 の施策の方向「雇用機会の拡大と待遇確保の促進」について、そういったものは制度としては整いつつある。</p> <p>実際使う立場になったら各務原はどう支えていくのか。制度の普及・充実だけでなく、その先も踏み込んでいくべきだと思う。</p>	<p>働きやすい職場環境の整備には、行政、市民、事業所の相互理解が必要であると考えております。プランの中でも、その前提を記載したうえで、商工会議所など関係団体とも協力しながら、多様な働き方や休暇制度について、情報提供や啓発を行っていきます。</p>
<p>・業種によっては、働きやすい環境づくりについての改善ができないこともある。いろんな部署で弊害が起きている。それを見直すには DX 化しかないが、費用と人件費が莫大である。半分でも費用を行政で負担してほしい。</p>	<p>市では、令和 5 年度より「各務原市のづくり DX・ロボット導入等支援補助金」を交付しています。</p> <p>詳細は市ウェブサイトをご参照ください。</p> <p>URL:https://www.city.kakamigahara.lg.jp/business/shokogyo/1018788.html</p>

働く女性への支援について	<p>・ひとり親や生活困窮者など、だれがみても困っていると分かりやすい人もいるが、バリバリ働いている人、役職についている人、それでいて子どもがいる人たちは、支援対象としてあてはまらない。しかし、毎日疲労困憊な状態にある。働いて稼いでも、家事支援や託児サービスにたくさんお金を使って、子どもとの時間も少なく、なんのために働いているのかわからなくなることもある。そんな人たちへの支援やケアが少ないと感じる。市から補助金を出して、家事代行や時間外保育をしやすい環境をつくるのが大事だと思う。「働け。輝け。」と言うわりに、その人たちへのケアが少ないと感じる。</p>	<p>現在、仕事と家庭生活の両立に向けた事業としては、家庭での役割分担やワーク・ライフ・バランスについて考えるセミナー事業、ファミリーサポート事業などを実施していますが、さらなる事業の充実については、第5次プラン策定後において、プランの方向性に基づき、検討してまいります。</p>
	<p>・各務原市は、金属団地など、ものづくりに携わっている人が多い。そういう企業で働き続ける女性への支援はどうしていくのか。そこまで踏み込むのが各務原の男女共同参画プランだと思う。</p>	<p>プランは、市の方向性を示すものであるため、具体的な事業については、個別に対応してまいります。</p> <p>なお、金属団地については、組合を通じて、働く女性支援について話し合う場を設けながら、解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。</p>
	<p>・相談については、働く女性が行きやすい相談時間の設定が必要だと思う。</p>	<p>働く女性が相談しやすい環境づくりとして、市民相談室では電話相談を受け付けています。</p> <p>過去に試験的に市民相談を土日に開催しましたが、利用者が少なかったことから、現在は土日における相談の実施は考えておりません。</p>
	<p>・働く中で大変な思いをしている人を救いたいと活動している市民団体もたくさんあるため、つながってほしいと思う。やってあげたいと思っている人がいるということを知っている人に知ってもらいたい。</p>	<p>支援を必要としている人に団体活動の情報が届くよう、対象となる方が集まるようなイベントでのチラシの配布など、様々な機会を活用して効果的な周知に取り組めます。</p>
	<p>・中小企業が自社で脱皮していくにはそのための情報が足りていない。行政がフォローしながら工業団地の中で組合を作ると、お互い助け合ったり、少しずつお金を出し合ったりと、いい方向性を生み出せるのではないかと。行政が働きかけるといい。</p>	<p>プランの具体的な事業施策の中で、中小企業への働きかけを検討していきます。</p>

困難な問題を抱える女性支援について	<p>・「困難な問題を抱える女性支援」について、体系に新たに追加された。相談体制の充実、生活支援や自立支援となっているが、実際のところ求めている情報が伝えるべき人に届かないことが課題である。情報にたどりつけるために、包括的な連携が必要。思ってもいないところを発端として、困難女性が支援にたどりつけることがあるかもしれないため、何か方向性に加えられたら。</p>	<p>施策の方向に紐づく「主な事業」の中で、庁内や他機関との連携体制の強化について、設定します。</p>
	<p>・相談体制の充実については、各務原市の市民相談一覧の表をもらったことがあり、その充実度に感心した。ウェブや LINE など周知方法を工夫しているが、困難な問題を抱える女性支援につながっていくためにより連携が必要だと思う。</p>	
	<p>・困難女性の支援計画はできているのか。</p>	<p>第5次プランの策定をもって、課題2基本施策3を「困難な問題を抱える女性支援基本計画」と位置付けます。</p>
	<p>・「困難な問題を抱える女性支援計画」について、女性だけでなく、男性も困難は抱えている。『女性』というワードは外してもいいのではないか。</p>	<p>「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づいた計画であるため、「困難な問題を抱える女性支援計画」としています。事業の支援対象は女性に限らないため、基本施策の表記は、「困難な問題を抱える人に対する支援」と記載しております。</p>
LGBT について	<p>・性の多様性について、親を対象にした学習機会も必要。子どもはせっかく平等の感覚があるのに、親が無知だったり考えが偏っていると差別的な言葉を平気で発してしまうかもしれない。</p>	<p>性の多様性に関する情報提供を生徒だけでなく、保護者に対しても実施したり、ライフデザインセンター等で生涯学習講座を開催するなどして、学習機会の充実に努めます。</p>
男女共同参画に関する調査・研究について	<p>・目標3、基本施策2、施策の方向2「男女共同参画に関する調査・研究」について、調査・研究はこれまで行われてきた。性的役割分担意識が根強く残っているということを考える機会を提供していかないと変わっていかないのではないかと感じた。「調査・研究」が施策の方向としていいのかと感じた。</p>	<p>男女共同参画の推進には、5年に1度の市民意識調査や事業所アンケートだけでなく、毎年行っている各課の事業進捗確認や女性登用率調査の結果等から、市の現状や課題点を分析し、各施策に効果的に反映する必要があると考え、第5次プランには、「調査・研究」を取り入れています。</p>

骨子(案)とプラン本誌の構成について	<ul style="list-style-type: none"> ・骨子案の資料を見ると、法律が並んでいるが、中身にLGBT法の説明がない。 ・プラン策定の背景について、国の動向から始まっているが、世界の動向から記載してほしい。 ・説明の文書にでてくる用語について、聞きなれない言葉も多いため、索引で説明を追加してほしい。 ・各務原市の人口や世帯構成の変動などもプランに記載してほしい。 	<p>今回の審議会でもいただいた意見も参考にしながら、第5次プランを作成してまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・骨子案の資料の中で男女年齢別グラフがあったが、令和2年というのは古いのではないか。新しいものを使うといい。 	<p>国勢調査の直近の調査結果である令和2年度のデータを載せています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・構成の変化について、県が3本柱にした理由があるのか。 	<p>県の第4次プランは以下の4本柱で構成されていました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①あらゆる分野における男女共同参画 ②働く場における男女共同参画 ③人権が尊重され、安全・安心に暮らせる社会の実現 ④男女共同参画推進の基盤づくり <p>県が第5次プランを作成する際に、「②働く場における男女共同参画」が「①あらゆる分野における男女共同参画」に包含されるという考えのもと、①と②を統合し、3本柱になったと県担当者に伺っております。</p>
プランの名称について	<ul style="list-style-type: none"> ・知人で「男女が輝く～」の『男女』が気になるという人がいる。性別に関わらずひとりひとりが輝くことが大切。 以前も同じ意見を出したとき、事務局からは「プラン更新の時期がきたら検討する」という答えだったが、今がそのタイミングではないか。 	<p>現行のプラン名のままにするのか、プランに別名をつけて、副題で「第5次男女共同参画プラン」と表記するのか、第2回審議会において事務局案を提示し、ご検討いただきたいと思います。</p> <p>別名の例) 愛知県豊橋市⇒ハーモニー 奈良県橿原市⇒自分らしく輝くかしはらプラン</p>

その他	<p>・小中学生も仲間に入れて、住みやすい街にしていくか考えていく必要がある。委員だけの意見では一方的すぎると思う。</p> <p>・とも☆きら講座などで、いろんな世代が男女共同参画について考えられる場をつくると、広く意見を吸収できる機会だと思う。</p>	<p>小中学生アンケートや高校生・大学生グループインタビューなどで幅広い年代から意見を収集したため、その結果を基にしてプランを策定していきます。</p> <p>プラン策定時以外にも座談会のような形で、「男女共同参画」について考えられる機会を設けていきたいと考えております。</p>
	<p>・小中学生の男女共同参画に対する意識が良くなっているが、ひとり親の子に対する見方は前よりひどくなっているように思う。ひとり親の子が問題を起こすと「片親だから」と言われる。外国人や性的少数者についての教育はしているが、ひとり親が悪くないという教育はしていないと思う。</p> <p>「多様な生き方の選択を可能にする」だけでなく、「多様な生き方が尊重される」という文言を入れてほしい。</p>	<p>多様な生き方が尊重されるという内容についても、プラン本編の中で触れていきます。</p>